

府川論文へのコメント

井伊雅子（一橋大学 国際・公共政策大学院）

総括的なコメント

○1999年4月から9月までの12市町村の国保老人のレセプトを、受診者ごとに名寄せすることにより、受診者1人当たり1ヶ月外来医療費、外来死亡者の医療費を、地域、年齢階級、レセプト件数に応じた分析を行っている。こうした分析は、高齢者医療制度改革の議論でも不可欠な重要な研究である。

質問

○受診者分類1から6は、直感的な分類方法でなく、わかりにくい。

○3ページの図2の解釈 「レセプト1件当たり医療費は年齢階級の上昇とともに単調増加したが、受診者1人当たり医療費は80-84歳でピークになり、それ以降緩やかに低下している」 興味深い観察である。

○外来受診者も外来死亡者も、1日あたり医療費は80-84歳でピークとなり、それ以降低下するという大変興味深いかつ重要な観察である。